

暑さに負けない！彩のかがやき栽培暦

普通期栽培

暑さ対策の
2大ポイント

最も効果的な暑さ対策は6月移植！
6月10日～25日に植えよう

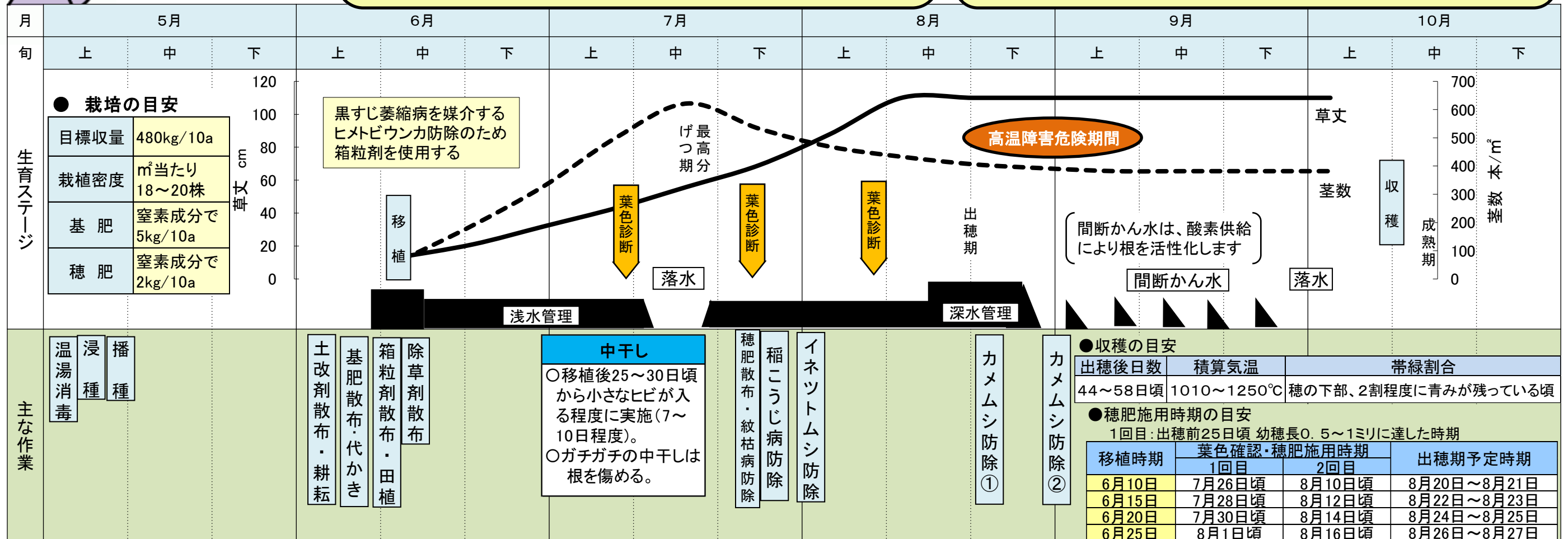
※ただし、6月下旬以降の移植は食味が低下する恐れがあります
※農業用水の取水期間・量は地域毎に決まっていますので御確認下さい

葉色の低下は高温障害の危険信号！

葉色診断による追肥を行おう



埼玉県マスコット「コバトン」



穂肥

○上表「穂肥時期の目安」および下表「葉色診断による追肥方法」を参考に実施！
○一発肥料の場合も葉色4以下の場合は穂肥を行う。

● 葉色診断による追肥方法(追肥量は窒素成分、葉色は群落値)

時期	移植後30日頃		穂肥① 出穂前25日		穂肥② 出穂前15～10日	
葉色	4以下	4以上	4以下	4以上	4以下	4以上
追肥	2kg/10a程度を追肥	追肥は行わない	2kg/10a程度を追肥	4以下になるまで追肥は行わず、4まで低下したら2kg/10程度を追肥。	2kg/10a程度を追加施用 ※注2参照	追肥は行わない

注 1. 穂肥①施用時の葉色が著しく低い場合(3以下)は穂肥②を出穂前15日頃に行う。

2. 穂肥②施用時に葉色が3～4の場合、気象庁の1ヶ月予報等を確認し、低温が予想される場合は施用しない。葉色が3以下の場合は必ず施用する。

出穂～収穫までの水管理

○穂肥施用後～出穂後7日までは湛水状態を保つ。
○出穂後7日以降は水を入れっぱなし、張りっぱなしにせず、田に入水したら水口を閉めて断水し、自然に落水させる間断かん水を行う。
○間断かん水は一週間で1サイクルとし、3～4日ごとに湛水と断水を繰り返す。
○完全落水は収穫10日～2週間前とし、早期落水は絶対に避ける。

収穫

○この品種は穂下部の帯緑が抜けにくいいため、穂全体が黄化するまで待つと刈り遅れとなるので十分注意する。
○特に高温時には登熟日数が極端に短縮することもあるので、注意！

秋耕

○稲刈後、秋の間に稲わらや籾殻、稲株をすき込む。
○秋耕を行うことで冬の間に稲わら等の分解が進み、水田の肥沃度向上や、次作水稻のガス害や窒素飢餓の防止となるとともに、温室効果ガスであるメタンの排出が削減できる。